

市長の公約、「地域活動資金」に質問集中

12月定例議会一般質問

12月定例市議会は9日から一般質問が始まりました。市長選後の初の定例会でしたが、通告を出したのはわずか21人でした。

答弁風景ががらりと変わった

村山新市長は一回目の答弁の時だけ答弁原稿を持ち登壇、2回目以降はメモも持たずにすぐに立ち、登壇して答えています。これまで、再答弁については、市長と副市長、担当部長との調整に時間がかかりましたが、そういう場面はなくなりました。市長答弁は、時たま、わかりにくい言い回しがあるものの、全体として自分の言葉で短く語られていて、議員などの評判もまずまずです。

地域活動資金の概要が明らかに

ところで今回の一般質問では、4人の議員が市長が公約でかけた地域自治区への約2億円

(28区合計)の地域活動資金について市長の見解をたどりました。その結果、以下のような地域活動資金の概要が明らかになりました。

【地域活動資金の概要】

- 28の地域自治区ごとに予算枠を配分する。
- 配分方法については、各区における基礎的な財源を等しく確保する視点とともに、人口規模に応じた財源の視点を加味するものにした。たとえば均等割と人口割を用いた算出基準などを検討している。
- 使途については、地域の皆さんが自ら考え、地域の課題解決や活力向上のために必要とする事業ならば、極力制限を加えることなく活用していただきたいと考えている。
- 地域事業が含まれる場合があったとしても、柔軟に対応したい。
- 事業の実施に当たっては、地域協議会において各種事業の採択や優先順位等が決定できるようにするとともに、各区において、地域活動の計画の立案から実施までをサポートできる体制を整えていきたいと考えている。
- 事業の実施は単年度ではなく、効果がでるよう複数年度を想定している。

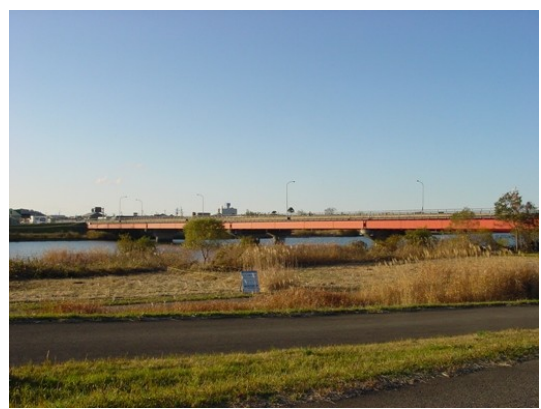
事業仕分け、三つの問題点

日本共産党は、鳩山政権がすすめた来年度予算案に関する「事業仕分け」について、三つの問題点があると指摘しています。

第一は、「本当に削られるべきムダ遣いが温存されている」という問題です。大型公共事業では「スーパー中枢港湾」や東京外郭環状道路

シリーズ 上越市内の橋

第19回 関川大橋



「関川大橋」と書いて「せきかわおほし」と読みます。国道8号線上にあります。関川にかかる橋の中では一番長い橋です。

橋の近くの河川敷は市民の憩いの場。散歩している人やウォーキングをしている人などに出会いました。上越レガッタの行われる場所もこの橋の上流です。橋長は約264.7メートル。1986年(昭和61年)竣工です。

などが温存されたこと、軍事費についてもヘリ空母や米軍への「思いやり予算」などにメスが入りませんでした。

第二は、「削ってはならない暮らしにかかわる大事なものが乱暴な形で切られようとしている」ことです。医療や保育などとともに、科学・技術の基礎研究にかかわるものが最たるものです。

第三は、仕分け人のなかに小泉「構造改革」を推進してきた人物が含まれていることです。やり方も時間を区切り、乱暴なものでした。

なお、事業仕分けで当市に影響が出るもの、あるいは出る可能性があるものは、基地周辺対策事業、高齢者職業相談室など22件です。

私の一般質問は予定より少し早くなつて、14日(月)午前10時からとなりました。上越ケーブルビジョン11チャンネルでご覧いただけます。

春よ来い 第一一〇回 安否確認

「ひと月に一度は家に帰るよ」そう言っていた次男がなかなか帰省しません。仕事があまくいかないのではないだろうか。ひよっとしたら体調を崩したのかも……。そんなことが気になって妻と一緒に金沢市に住む次男夫婦のところへ行ってきました。たまたま、出かけた日は風が強く、電車は遅れがち。私たちが乗ろうとした電車も大幅に遅れました。

金沢駅には予定よりも三〇分遅れて到着。次男夫婦が改札口の近くで待っていてくれました。私たち夫婦を見つけると、若い二人はニコニコ顔になりました。「やあ、久しぶり」「久しぶり」。手をあげて簡単な挨拶をしましたが、どうやら、元気にやっているようです。なんとなくホッとしました。

数日前、次男は、「土産を持ってきてくれるなら家で食べている、いつものりんごがほしい」と言いました。「はい、りんご」。ふじりんごが十個ほど入った袋を渡すと、また、にっこり。わが家で食べているりんごは長野県須坂市から毎年取り寄せているもので、蜜がたっぷり、甘味と酸味がうまく調和していて実においしいのです。

金沢では次男夫婦と一緒に昼食を食べ、二人の住まいを見学した後、みんなで兼六園を訪ねることにしていました。お昼は若い二人があらかじめ調べておいてくれたお店に入りました。日曜日とあって、かなり混んでいましたが、そう待たずに席につくことができました。

注文した食べ物「ふやき御汁弁当」です。この店では金沢名物・「ふやき」が自慢です。出された御汁は「ふやき五色汁」といって麩(ふ)の中に人参、カボチャ、ほうれん草、ごぼう、しいたけなどが入っていて、じつにカラフルです。それと、小さな弁当箱の中にはしめじのうま煮、カボチャのいとこ煮、大根の甘酢漬、タラコの昆布巻き、エビ、鯛の焼いたものなどが並んでいます。こちらも豪華です。食事をしながら、次男が勤めている会社のことや、新婚家庭を訪ねてきてくれた高校時代の友人の話などを聞きました。

兼六園は次男が案内してくれました。友だちが訪ねてくるたびにこの庭園に来ているようで、桂坂口から霞ヶ池、根上松へとスツ、スツと歩きます。テレビでしか見たことのない松や桜などの雪つりのワラ縄はきれいで、まさに芸術品でした。

あいにく、この日は途中から冷たい雨になってしまいました。外にいては寒いので、妻が時雨亭に入ってお茶を飲むと提案、みんなで入ることにしました。時雨亭は木造平屋建てで、屋根はこけら葺きです。勤務先で茶道を教えていることもあって、お茶を飲んだ後、妻は生け花や掛け軸等を見ながら次男夫婦にいろいろと教えていました。この建物の中で次男夫婦と過ごした時間は妻にとって最高の時間となったようです。

わずか三時間の滞在、時間はあっという間に過ぎていきます。次男が運転する車で移動中のこと、ある民家の庭に柿の実が残っているのが目に入りました。「あつ、柿がある。隣の客はよく柿食う客だ。庭には二羽、にわとりがいた。裏庭には二羽、にわとりがいた」とやったら、妻に「お父さん、はしゃいでいる」と言われました。私は、次男夫婦と一緒にいるだけで満足でした。

帰りの電車の中で本を読んでいると、次男から笑顔マークのついた携帯メールが届きました。「今度、暖かい時にきないや」。いや、うれしいね。

石谷町内会が「豊かなむらづくり北陸農政局長賞」受賞祝賀会

吉川区の石谷町内会がこのほど「豊かなむらづくり全国表彰事業 北陸農政局長賞」を受賞し、先月27日、スカイトピア遊ランドで受賞祝賀会が開催されました。

曾根一志町内会長が受賞の喜びを語り、村山秀幸上越市長等3氏が祝辞をのべました。

曾根町内会長はこれまでのむらづくりの経過を振り返りながら、「こんな名誉ある賞をいただいたことに驚いている」「いくつになっても“がんばろうの精神”で地域の維持に努めていきたい」と語りました(画像)。

村山市長は、「きびしい農業農村の中で農事組合法人をつくり、山間地で圃場整備をし、都市との交流をすすめてきたみなさんの一つひとつの努力がこの賞につながった。みなさんの元気、がんばりから私自身も元気をもらい、勇気づけられた。この地域の力が外に広がっていくようにしたい。そして、この地域にもっと新しい光があたり、新しい芽が生まれてくるようにみなさんのお力をお貸してください」とのべました。

上越地域振興局の桜井敬作農林振興部長は、「上越地域は米山山系からぐるっとU字型に山々が連な

り平野部を抱きかかえている。山の恵みがあってこそ頸城野の平野が豊かになり、海が恩恵を受けている。みなさんの営みが続く限り、私たちはみなさんを見捨てることはありません。道が壊れればなおします。沢が崩れればなおします。私らができることは何でも支援します」と決意を込めて語りました。

石谷町内会や川谷地区と長年交流を続け、過疎のムラを支えてきた法政大学人間環境学部の田中勉教授は講義風に挨拶されました。「“おめでとう”という以上にみなさんに感謝申し上げなければならない。環境を考える時に農業が重要で欠かせないが、2000年から吉川町(当時)で農業の現場で勉強の機会を与えてもらい、200人近い学生が学んだ。過疎化、高齢化が進んだところは元気がなくてダメという情報がある中で、この石谷は違った。驚いた。こんなに力強く元気な方々がたくさんいる。学生たちはここへ来て元気をもらって帰り、また来たいという。いつも色々なものを与えてくださってありがとうございます」。いい祝賀会でした。

